

「リーフグリーンという色」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

水彩で絵を描いていると、風景そのものから季節の変化を感じる。絵具の使い方も、季節によってずいぶんちがってくる。冬の風景は色彩が乏しく、青や黒といった寒色系の色がよく減る。秋は、黄色や橙をよく使う。春には緑をよく使う。中でも「リーフグリーン」という色が一番減りかたが速い。



「私の水彩パレット」

緑が一番多く5色。絵具の選び方は個人の好みがあり、私は長年描いてこの25色を選んだ。



「リーフグリーン」(透明水彩 / ホルベイン画材製) 5ml 20ml チューブがあるが、最近は大特の 60ml チューブで購入するようになった。それほどよく使う。



「リーフグリーンの丘陵」 5月上旬 上田市真田



「リーフグリーン」は名の通り、新緑の木々の葉の色である。子どもが使う絵具の色では、「うす黄緑」とでもいうのだろうか。上の写真のような春の丘陵地を描くには、最適---というよりも、私にとってはなくてはならない色である。



「新緑の白樺林」 C. Tanaka

上の絵でも3色の緑を使っている。中でもリーフグリーンを一番たくさん使っている。絵を描いていると、絵具の減り方からも、季節を感じることができる。